

令和元年度 県土整備部環境配慮事例報告書

保全対象種

事業主管課	河川整備課
実施機関	県土整備部(阿南)

【事業の概要】	
事業の種類	河川・ダム等の整備
事業箇所名	阿南市
事業の規模・状況	1350 m 小規模事業a 施工段階

【事業の目的及び概要】
 総合流域防災事業実施箇所は、河床勾配が非常に緩く、平常時の流れはほとんど見られず、また上流部は地盤高が低いことと相まって浸水被害を繰り返していることから、流下能力を向上するための河道の拡幅や掘削を進めていく。

【実施した環境要素の一覧及びRDBの有無、モニタリングの要否】

大気環境	水環境	地形・地質等	生物多様性	景観	自然とのふれあい	文化財	廃棄物・温室効果ガス等	RDB種の有無	モニタリングの要否
			○					○	○

【特に配慮した環境要素と実施事項】
 事業実施箇所においてはオグラコウホネ(徳島県版RDB:絶滅危惧Ⅰ類)他多数の希少種が確認されていることから、護岸の工法や進め方について環境アドバイザーおよび徳島県植物研究会会長に助言を求めている。
 今年度の事業の実施に当たっては、護岸工事による影響範囲内の個体を範囲外へ移植し、定着状況の確認を行うとともに、固有種の生息に影響を与える外来種の除去を行った。

【目標に対する達成状況】
 希少種の保存工法が実践されると共に、工法の適切さの評価(定着度85%)ができた。

【実施事項に対する評価】

実施者	今後もモニタリング調査を継続し、必要に応じて対応措置を行うことで、さらに移植の効果を高めていく。移植及びモニタリング調査で得られた知見を整理し、今後の保全措置に反映していく。
主管課	河川改修後も多様な生物が生育できる環境が創出されていることが確認された。引き続き、河川環境の整備と保全に取り組んで参りたい。
専門家	当工区は傾斜のゆるやかな川で、浸水がしばしば起こっており、それを改善しようとする工事である。しかし、そこには、その環境に適した生き物がたくさんすんでいて、環境が変わると生きていけなくなる。そのような相反する課題を、専門家の意見を聞きながら、バランスをとりつつ事業を進めているよい事例である。今後もモニタリングしながら、近隣の他部局の工事とも連携し、それらの生き物が住み続けられるよう配慮いただきたい。



【オグラコウホネ】
 日本原産で近畿・四国・九州の湖沼、ため池、河川などの水深1~2mの水域に群生するスイレン科の抽水性の多年草。主に止水域に産するが、河川や水路等の流水域にもしばしば生育する。沈水葉のみの状態でも開花する。花期は6~8月。

写真, 図面等

